

(西暦) 2019年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

看護系大学教員の教育実践に関する現象学的研究

学位の種類: 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号18894705

氏名: 中田 千恵子

(指導教員名: 西村 ユミ)

研究目的

日本では、急速な高齢化や医療技術の進歩によって、看護師に期待される役割は拡大し、看護系大学も年々増加傾向にある。このような現状をふまえ、さらなる看護学教育の質保証・看護教員の資質向上が求められている。そこで、本研究では、看護系大学教員が、どのような経験から何を大切にし、どのように教育実践をしているのかを明らかにした。

方法

研究参加者は3名の看護系大学教員であった。授業および演習への参加観察からはフィールドノーツを、またその後の非構造化インタビューからトランスクリプトを作成し、研究参加者が大切にしていることや教育実践の成り立ちと、両者との関係について、現象学的研究を用いて分析した。なお、倫理的配慮については、平成30年度首都大学東京荒川キャンパス研究安全倫理委員会の承認(承認番号:18111)を得て実施した。

結果・考察

研究参加者は、過去の教育経験を振り返りながら、「学生の視点」や「学生の反応」を捉え、「常を感じなさい。考えなさい。」という視点や「雰囲気伝える」ことを大切にしていた。「学生の視点」を大切にしていた参加者は、「視覚教材を活用」し、「学生の視点」を視覚教材へ誘導することや、学生の反応から演習の組み立てなどを考えていた。看護学部生の演習時に「常を感じなさい。考えなさい。」を大切にすることを学んだ研究参加者は、その「常を感じなさい。考えなさい。」ということ、看護師として実践する際にも大切にすることで強化され、これが、自身が大切にしていることだと確信し始めていた。そのような大切にしていることを教育にも反映することで、学生の「実践に驚きや感動」を伝えることができ、そうした経験を通して、自身もまた、教育実践の仕方について「常を感じ、考えて」いた。過去に体得した「看護過程」や「教育実習」で学んだ「学生と関わる時の基本姿勢」という「ベース」を持ちながら、これを大事にして、その時の「雰囲気」や「タイミング」で「臨機応変」に教育実践をしていた参加者もいた。大切にしていることは、語りにおいて過去の異なる教育実践と、現在の教育実践とが結び付けられ、取り入れられていた。

本研究で明らかにした教員にとって大切なことは、個々の教員の教育実践において、捉え直され、更新されていた。この結果から、大切にしていることの捉え直しや更新の過程を振り返る必要があることが示された。